

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(2)—

東京支店 営業第一課 神原 勇

バショウカジキ

学名

Histiophorus orientalis

Istiophorus americanus

Istiophorus albicans

分類学的にはスズキ目・サバ亜目・マカジキ科にぞくする。

カジキ科には代表的なものとして

マカジキ Striped marline

体表面に横縞のあるカジキ

クロカワカジキ Black marline

体の表皮が他のものより黒い

シロカワカジキ White marline

体の表皮が白灰色

メカジキ Sword fish

上アゴが平たく剣状

バショウカジキ Sail fish

背ビレがすばらしく大きい

等があり、カジキ科の魚類は上アゴが前方に長く伸び(約50~100cm)その先端は槍の穂先のようにとがって、乾燥させると樫の木におとらない位かたくなるので、漁船ではロープ・細索等のサツマ(ロープなどをつなぎあわせる)を入れる時に使用される他、飾り物に細工される。

バショウカジキはあて字では羽生とも書かれ、芭蕉の葉のような背ビレをもっており、長崎では葉魚とも呼ばれる。また背ビレを大部分海面上に出して遊泳する状態は帆船の帆に似ているところから、英語では前述の如く Sail fish と呼ばれる所以である。

背ビレの大きさは、目と胸ビレの中間辺より臀ビレの後端まで伸びて、その高さは体高の約2倍半以上に達する。

バショウカジキは全世界の赤道から温帯にかけて分布していて、日本近海では九州海域に多い。世界の著名なる漁場は

1. パナマよりメキシコにかけての中米太平洋岸
2. 東アフリカ中部よりソコトラ島周辺よりアラビヤ海中部沿岸海域
3. キューバ寄りのカリブ海
4. ブラジル東海岸フリオ岬北方水域

等で、主としてマグロ用延縄で漁獲されるが、マグロ類に比較して表層附近を生息水深としているので(表層~50m)延縄漁具のうちで、浮縄・枝縄を短くするとか、一鉢当りの釣針の数をメバチマグロを主体とするときは6本付けが普通であるが、バショウカジキを主体とするときは、4本付けとして一鉢の最深部を浅くするよう調節する。

因に各種マグロ・カジキ類の漁獲生息水深は、

- |         |          |
|---------|----------|
| カジキ類    | 10~50m   |
| キワダマグロ  | 60~100m  |
| メバチマグロ  | 100~150m |
| ビンナガマグロ | 140m以深   |

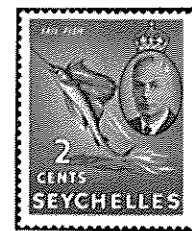
延縄及トローリング(Trolling)の釣針にかかったバショウカジキは、表層近くを逃げ廻り又は跳する等決して深く潜る事なく、延縄ではボンデンのガラス球、浮縄に捲きついて斃死する事が多い。

スズキ目 マカジキ科 バショウカジキ

学名: Istiophorus albicans

英名: sail fish

全世界ノ温帯カラ熱帯ニカケテ分布スル。外洋性ナリ。普通表アゴ 50cm 位、トコヲ游泳シテイルガ、高イ背ビレヲ水面ニ突出シ、数尾ナリツテ游泳スルコトモアル。肉ハマカジキニ似テ、紅色ヲアルガ、マヤ赤ツネガ、強ク、繊維ガタク且脂肪ガ少イデ、肉ハ滑ルガ、初夏カラ秋ニカケテ シュンニ当ツタオリ、サツパリトツテ相物美味ナル。オトツテ延縄及突不テ、漁獲サレレガ、トローリングノ対象魚種ノツデモアル。



セーシェル群島 - 1935



英領ホンジュラス - 1967



セーシェル群島 - 1934



キューバ - 1965



サルバドル - 1971



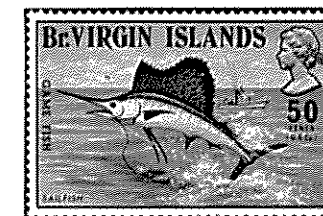
アセンション - 1971



モンセラット - 1969



ニカラガ - 1969



英領バージン諸島 - 1972